

プロスルホカルブ乳剤 ボクサー	取扱メーカー： シンジェンタ 原体メーカー： シンジェンタ
成分： プロスルホカルブ〔カーバメート系〕……………78.4% その他 PRTR 該当成分： 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩〔PRTR・1種〕…4.0% 1,2,4-トリメチルベンゼン〔PRTR・1種〕……………3.0%	性状： 淡黄色澄明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第2石油類(水溶性)・危険等級Ⅲ

【品目特性】……………

●ほとんどの畑地一年生雑草に有効であり、秋播き麦で問題となるスズメノカタビラ・スズメノテッポウ・ネズミギなどのイネ科雑草から、ナズナ・タネツケバナ・ヤエムグラ・ハコベなどの広葉雑草まで、幅広い草種に効果を発揮する。

●土壌中の移行性が小さく、安定した処理層を形成し、雑草の発生とともに幼芽部・根部から吸収され、速やかに効果を発揮する。

●雑草発生後処理では茎葉部からも吸収され、生育遅延からネクロシスを経て枯死するため、低温時は効果の発現までに時間を要する場合がある。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前～発生始期に散布する。

●土壌が極端に乾燥していると除草効果が劣ることがあるので、希釈水量を多めに散布するか、土壌が適度な水分を含んでいる時に散布する。

●砂土での使用はさける。

【薬効・薬害等の注意】……………

●碎土、整地は丁寧にを行うとともに、種子が露出しないように覆土も丁寧に、は種深度2 cm以上になるよう留意する。

●水田裏作で排水不良かつ過湿の場合、散播栽培で覆土を行わない場合は麦類に薬害を生じるおそれがあるため使用しない。

●散布後2～3日以内の激しい降雨で効果が低下あるいは薬害が助長されることがあるので、降雨直前に使用しない。

●本剤の使用により、一過性の薬害（黄化、縮葉）を生じることがあるが、その後の生育に影響はない。

●植物に薬液が付着すると薬害を生じるおそれがあるので、散布時の飛散には十分注意する。

●飼料用とうもろこしで堆肥を多く施用した圃場では、低薬量でイネ科雑草に効果が劣る場合があるので、広葉雑草優占圃場で使用する。

●麦類に使用する場合、葉斑、黄化、縮葉などの一過性の薬害症状がみられる場合があるため、次のような条件下では使用をさける。

○水田裏作の排水不良の畑。

○散播栽培で覆土を行わない場合。

●小麦の秋播栽培の小麦2～4葉期に使用する場合は、次の注意事項を守る。

○春播品種を初冬播きする場合は、融雪後から雑草発生始期までに使用する。

○必要に応じて有効な前処理剤との体系で使用する。

●たまねぎに使用する場合、葉の癒着等の薬害が生じるおそれがあるので、次の注意事項を守る。

○重複散布はさける。

○葉面散布肥料との混用、又は直前直後の使用はさける。

○他の農薬との混用はさける。

○高温時、又はたまねぎの高葉期の使用をさける。

●たまねぎの中耕後に使用する場合は定植後の土壌処理剤との組み合わせで使用する。

●適用作物（小麦、大麦）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

- 藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	プロスルホカルフを含 む農薬の総使用回数	
			薬量	希釈水量				
小 麦	一年生雑草	秋播栽培の は種後～麦2 葉期 (雑草発生前～ 発生始期)	400～ 500 ml	50～ 100 ℓ	2回以内	雑草茎葉散 布又は全面 土壌散布	2回以内	
		秋播栽培の 麦2～4 葉期 (雑草発生前～ 発生始期)		70～ 100 ℓ				
		春播栽培の は種後出芽前～ 出芽摘期 (雑草発生前～ 発生始期)		100 ℓ				
大 麦		秋播栽培の は種後～麦2 葉期 (雑草発生前～ 発生始期)	500 ml	70～ 100 ℓ	1 回		1 回	
麦 類 (大麦, 小麦 を除く)		は種後出芽前 (雑草発生前)	400～ 500 ml					100 ℓ
とうもろこし 飼料用とうもろこし		植付後萌芽前 (雑草発生前)						
ばれいしょ		定植後 又は中耕後 (雑草発生前) 但し、収穫45日 前まで						
たまねぎ								